

## 2019 年度支援対象活動及び実施者等の計画書

受付番号 19-1

## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	山口大学 白水 元
--------	-----------

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	榎野川河口干潟の地形・流況および土砂環境モニタリング
活動目的	豊かな沿岸環境の基盤である干潟の微地形の形成維持には、流況に加え、底質土砂内部の動態も大きく寄与することが明らかとなってきた。本活動では定期的な干潟地形のモニタリングに加え、気象データや実河川のデータ、また干潟底質データを用いて、榎野川河口干潟の地形変化予測モデルの開発に資する環境分析を行う。
活動場所	榎野川河口干潟（南潟）
活動内容 ・計画	<p>○ 調査</p> <p><u>UAV（飛行ドローン）を用いた干潟地形モニタリング：通年</u>          UAVによる空中写真と衛星測位システムを用いた地盤高測量により、干潟地形の立体的な把握を行います。ほぼ毎月実施し、季節毎の変化や台風・大雨等の突発的なイベントによる変化を捉えます。</p> <p><u>底質土砂強度分析・試料採取分析：4月・8月・12月</u>          南潟内の複数の箇所です砂を採取し、地形の変化に関する土砂の強度や構成を調べます。</p> <p><u>地下水流況観測：8月・12月</u>          干出中の干潟の地下水の挙動は干潟土砂の構造を密にし、強度を増加させる働きがあると考えられます。これにより干潟の土砂は冠水時の波流れに対する抵抗を増すため、干潟の地形の形成や維持に関係します。南潟内で2、3カ所を対象に塩ビパイプによる簡易的な井戸をセットし、計測機器を用いて地下水の流向流速の断続的な計測を行い干出時の地下水挙動を把握します。</p> <p><u>出水時掃流砂観測：6・7月ほか大規模出水時</u>          大雨・台風による河川出水は、流域の土砂を海に放出し、周辺の沿岸の地形に影響を与えます。梅雨の時期や台風期の大規模出水に際して、榎野川河口域に接続する河川から流れ出る土砂量と地形変化との関係についての知見を得ることを目的とします。</p> <p>○ 学会での発表          第66回海岸工学講演会における研究発表：鹿児島市、2019年10月末</p>



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	山口大学 後藤 益滋
--------	------------

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	環境 DNA を用いたアサリモニタリング手法の開発
活動目的	環境 DNA 技術を用いてアサリのモニタリングを簡略化し、短期間でより広範囲の資源量推定に寄与すること
活動場所	樫野川河口干潟 特に、南潟、秋穂二島、阿知須
活動内容 ・計画	<p><b>活動内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査の簡便化への検討</li> <li>・種特異的プライマーの開発☞すでに開発、実証済み</li> <li>・解像度の検討→どのくらいの範囲を反映しているのか？ ☞南潟から山口県沿岸域のサンプリング、解像度とバイオマスとの比較 *南潟におけるプレ調査では<u>バイオマスと環境 DNA 値と正の相関がみられることが昨年度の研究で判明。解像度データが少なく、引き続き収集を進める。</u></li> <li>・山口湾における幼生分布 ☞<u>幼生の判別と、幼生バイオマスと環境 DNA 値との関係を明らかにする。</u> ☞<u>産卵のタイミングを環境 DNA の濃淡で明らかにする。</u></li> <li>・上記の基礎データを基にして以下の開発を行う ☞<u>マイクロスケールからマクロスケールのアサリの資源量推定</u> ☞<u>アサリの潜在的生息地の予測～空間分布モデルの開発</u></li> </ul> <p><b>今後の予定</b></p> <p>2019年4月～2020年2月・・・<u>山口湾及び山口県沿岸域のモニタリング</u> (季節ごとに実施予定)</p> <p>2019年5月～7月、9月～11月・・・山口湾及び山口県沿岸域の産卵、幼生モニタリングを実施。<u>特に産卵期大潮時に夜間8時間モニタリング実施。</u></p> <p><b>得られた成果の活用方法</b></p> <p>学会発表・・・生態学会 2020年3月予定          学術論文・・・和文もしくは英文投稿予定（できれば英文で投稿をしたい）          和文候補は、水環境学会または水産学会誌          英文候補は、オープンアクセス系、Plos-ONE など</p>

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円	
予算の支出期間	2019 年 4 月 ～ 2020 年 3 月 ※ 対象となる活動は 2019 年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (200,000 円)	
支出予算	応募案内中の表 1 : ①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)
	②	50,000
	②	21,800
	②	712
	②	40,000
	②	24,000
	②	35,900
	②	2,200
	②	3,300
	②	2,000
	②	20,000
	合計	199,912

区分	予算額(円)	内訳(積算根拠)
②	50,000	DNeasy Blood & Tissue Kit (50) 2 個
②	21,800	簡易型プランクトンネット 1 個
②	712	塩化ベンザルコニウム水容器 1 本
②	40,000	プロテナーゼ K 1 本
②	24,000	解析用 F・R プライマー&プローブ 各 1 本
②	35,900	50mL 遠沈管 1 箱
②	2,200	平型ピンセット 10 本
②	3,300	シリンジ 60mL 1 箱
②	2,000	クーラーボックス 1 個
②	20,000	解析費 (シーケンス等) 1 式
合計	199,912	

### 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ リーダー 南條 楠土（水産大学校生物生産学科）
--------	---

### 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング																				
活動名	干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食－被食関係の解明 (主体：水産大学校 生物生産学科 沿岸生体系保全研究室)																				
活動目的	アサリをはじめとする水産上有用な二枚貝資源の回復を目指した研究として、それらの捕食者である肉食性巻貝による二枚貝捕食の実態を明らかにすることを目的とする。																				
活動場所	榎野川河口干潟（南潟）																				
活動内容 ・計画	<p>肉食性巻貝であるアカニシとサキグロタマツメタを対象とし、各種が干潟に生息するどの二枚貝種を捕食するかを野外調査と室内実験で検討する。野外調査では、各巻貝が捕食する二枚貝を特定するために、榎野川南潟を広く踏査し、実際に二枚貝を捕食中の巻貝を探し、両種を特定する。また、巻貝による摂食痕のある二枚貝死殻を採集し、どの二枚貝種が食べられやすいかを特定する。</p> <p>次に、室内実験により、巻貝による二枚貝への摂餌選択性を検討する。小型水槽に巻貝、アサリ、および他の二枚貝1種を入れ、どちらの二枚貝種が先に捕食されるかを調べる。巻貝による選択性が二枚貝種間で異なった場合、その理由を検討するために、二枚貝殻の外部形態を詳細に計測する。殻長、殻高、殻幅をノギスで計測してそれらの比を算出し、二枚貝の殻の形態を比較する。また、二枚貝殻をエポキシ樹脂で包埋し、卓上研磨切断機で切断することで貝殻の切片を作製し、その断面より貝殻の厚さを測定する。これにより、アカニシとサキグロタマツメタそれぞれについて、積極的に捕食する二枚貝種を特定し、二枚貝殻の形態的特徴の違いに着目してその選択性の要因を検討する。研究成果は Plankton and Benthos Research に投稿する予定である。</p> <p>年間スケジュール：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4～6月</th> <th>7～9月</th> <th>10～12月</th> <th>1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野外調査</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>室内実験</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>そのほか</td> <td></td> <td>学会発表</td> <td></td> <td>論文投稿</td> </tr> </tbody> </table>		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	野外調査	○	○			室内実験	○	○	○		そのほか		学会発表		論文投稿
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月																	
野外調査	○	○																			
室内実験	○	○	○																		
そのほか		学会発表		論文投稿																	

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円		
予算の支出期間	2019年 4月 ～ 2020年 3月 ※ 対象となる活動は2019年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input checked="" type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input type="checkbox"/> 概算払い (                      円)		
支出予算	応募案内中の表1: ①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)                      内訳(積算根拠)	
	旅費	45,000                      調査旅費: 下関-南潟 (30円×75km×往復×10回)	
	謝金	45,000                      野外調査1回 4500円×10回	
	消耗品費	40,000                      貝殻切片作製資材(樹脂など)	
	消耗品費	30,000                      卓上研磨切断機用消耗品(カッターなど)	
	消耗品費	10,000                      貝殻計測測器(ノギスなど)	
	その他	30,000                      英文校閲費	
	合計	200,000	

## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ (山口県環境保健センター環境科学部・自然保護課)
--------	--

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	①二枚貝モニタリング調査 ②被覆網によるアサリ再生活動の効果的手法の検討 (主体：山口県環境保健センター・県自然保護課)
活動目的	①干潟の底質環境や生物多様性の向上を目的とした自然再生活動等の効果を評価するため、二枚貝を指標種とし、その生息状況をモニタリングする。 ②被覆網によるアサリ再生活動について、より良い生育環境の創出や作業負担の減少などに資するため、網への海藻の付着や漁獲に伴う底質環境等の変化が、その後のアサリの生育に与える影響を検討する。
活動場所	榎野川河口干潟（南潟等）
活動内容 ・計画	<p><b>①二枚貝モニタリング調査</b>          四半期ごとに、50 cm 四方のコドラート、5 mm メッシュフルイを用い、被覆網下の底質に生息する二枚貝の同定及び個体数の計数、アサリの殻長組成を調査する。調査区画、調査地点等は別添のとおり。</p> <p><b>②被覆網によるアサリ再生活動の効果的な手法の検討</b>          被覆網に付着した海藻は、夏場に腐敗することで、底質に生息するアサリ等の生育に悪影響を与えることが懸念されている。このため、定期的に網を交換しているが、海藻の付着した網は重く、作業者の大きな負担となっている。そこで、海藻が付着したままの網と適宜交換する網（海藻の付着がない網）下のアサリの四半期ごとのモニタリング及び底質の酸化還元電位の測定等、海藻の影響の程度を調査する。          アサリの漁獲による底質の掘り起こし（耕耘）や個体の過密状態の緩和が、その後のアサリの生育に与える影響を調査するため、漁獲をしない網（非耕耘・過密状態）、適宜漁獲をする網下のアサリを四半期ごとにモニタリングする。</p> <p><b>③その他</b>          得られた成果は、<b>公害防止研究会（三重県津市）</b> 等で発表予定。</p>

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円	
予算の支出期間	2019年5月 ～ 2020年2月 ※ 対象となる活動は2019年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input checked="" type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input type="checkbox"/> 概算払い (                      円)	
支出予算	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)
	消耗品費	150,000
	旅費	50,000
	合計	

区分	予算額(円)	内訳(積算根拠)
消耗品費	150,000	ORP 電極 1本 20,000 円 pH 電極 1本 20,000 円 胴長 6個 90,000 円 ふるい 5mm 1個 20,000 円
旅費	50,000	交通費 (新山口-津) 40,000 円 宿泊費 10,000 円
合計		



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ (NPO 法人野鳥やまぐち)
--------	--------------------------------------

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	きらら浜自然観察公園 アサリ生育場所の造成 (主体：NPO 法人野鳥やまぐち)
活動目的	山口湾内ではアサリ資源の再生の活動が行われているが、ナルトビエイなどによる食害があり、被覆網の設置により食害を防ぐことで、アサリの生育を保っている。きらら浜自然観察公園は阿知須干拓地内にあり、格子がある水門を通じて海水を出し入れするため園内にはアサリの天敵となる生物は少ないと考えられる。園内の汽水池に海砂を投入することでアサリが好む砂質干潟を造成し、アサリの生育状況を確認しながら山口湾周辺の母貝団地として機能していくことを目指す。
活動場所	<p>きらら浜自然観察公園内には 8ha の干潟が整備されているが、大部分は泥質干潟で砂質干潟の面積が小さい。海砂を投入する予定の場所は汽水池の南東側で、岸边には砂が堆積しており、砂質を好むアサリやハクセンシオマネキなどが確認されているが、干潮時に裸出する面積が小さく、園路から降りやすい場所でありながら環境学習などに利用されることが少ない。海砂を投入して砂質干潟を好む生物の生息環境をつくることで、アサリの生育場所としてだけでなく、子どもたちの環境学習の場として活用できる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>汽水池</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>海砂の投入予定場所</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
活動内容・計画	<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・汽水池内に海砂を投入する。</li> <li>・定期的に底質の変化やアサリをはじめとした底生生物の生息状況を調査する。必要に応じて、南潟で生息するアサリの稚貝を散布する。</li> <li>・砂質干潟の一部に被覆網を設置し、生息状況の変化や食害の有無を調べる。</li> <li>・砂質干潟にアサリや底生生物が定着すれば、潮干狩りや生き物観察会などの行事を開催する。</li> </ul>

### 3. 活動予算

申請金額	120,000 円		
予算の支出期間	2019 年 4 月 ～ 2019 年 3 月 ※ 対象となる活動は 2019 年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)		
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input checked="" type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input type="checkbox"/> 概算払い (                      円)		
支出予算	応募案内中の表 1 : ①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	予算額(円)	
	内訳(積算根拠)		
	消耗品費	102,600 円	海砂 (5,400 円/2 トントラック×19 台分)
	旅費	11,400 円	海砂輸送ガソリン費 (往復 40 km、燃費 8 キロ/ℓ、軽油 120 円/ℓ、 1 往復 600 円×19 回)
	消耗品費	6,000 円	アサリ生育調査用 (木杭 : 30 本 3,000 円、ア ニマルネット : 1m×50m3,000 円)
	合計	120,000	

## 1. 申請者（活動実施者）

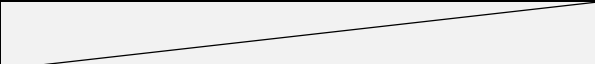
氏名・団体名	干潟・水産資源再生ワーキンググループ 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 重田 利拓・辻野 睦
--------	---

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動
活動名	干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究
活動目的	干潟域を成育場等として利用する魚類の食性など生態調査により、干潟の鍵種であるアサリ等の捕食（食害）状況を把握するとともに、これらが生息する干潟の生息環境を生物指標を用いて把握する。これら環境・水産重要魚種の資源回復・再生のための基礎的知見を得る。
活動場所	山口湾-榎野川河口域（瀬戸内海）
活動内容 ・計画	<p>本研究調査は、干潟の鍵種である「アサリ」を介して、相互に密接に関係した以下の2パートより構成される。</p> <p><u>1. 魚類の生態に関する調査</u></p> <p>主に、クロダイ、トラフグ、ニホンウナギ（絶滅危惧IB類）など水産・環境重要魚類の食性調査を行う。アサリなど砂浜性二枚貝（基礎生産者のろ過食者）を重要な餌資源としていることから、それらの捕食（食害）状況も把握する。必要に応じ、DNAを用いた種同定、生体元素の安定同位体を用いた食物網・元素起源の推定などを行う。魚類から見た流域圏・干潟生産構造の把握を試みる。</p> <p><u>2. 干潟環境に関する調査</u></p> <p>農業関係では、田畑の土壤環境評価に、そこに生息する微小動物である線虫を生物指標として用いている。我々は、陸地の延長である干潟への適用を模索している。これまでの現場調査により、マクロベントス（ほとんどがアサリ）と線虫の現存量には正の相関関係があることを明らかにしている。真に、アサリが増えることで線虫の密度や科組成がどのように変化するのか実験的に明らかにする。アサリと線虫の関係について実験的に検証するとともに、相互の定量的な関係を明らかにする。さらにアサリの成育環境を好む指標種となる線虫類を検出する。DNAによる種同定、CHN（元素）分析や粒度組成分析による泥質分析などの手法を用いる。</p> <p>これらの調査研究の成果に基づき、瀬戸内海研究フォーラム（瀬戸内海研究会議、9月、広島）、日本水産学会中四国支部大会（日本水産学会、10月、広島）等での発表を予定している。併せて、干潟観察会や出前授業、マスコミ対応などを通じて、地域社会への貢献を果たしたい。</p>

### 3. 活動予算

申請金額	200,000 円	
予算の支出期間	2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月 ※ 対象となる活動は 2019 年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (200,000 円)	
支出予算	応募案内中の表 1 : ①~⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)
	①旅費・宿泊費	41,700 円
	②備品・消耗品費	55,000 円
	⑥事務管理費	15,000 円
	③印刷費	20,000 円
	⑦その他	68,300 円
	合計	200,000 円



## 1. 申請者（活動実施者）

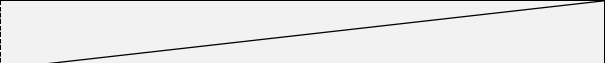
氏名・団体名	環境学習ワーキンググループ リーダー 後藤 益滋、平田 明子
--------	-----------------------------------

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング <input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動
活動名	住民協同型の干潟生物マップづくり
活動目的	榎野川河口干潟における生物マップをつくり、山口湾の魅力を発信する
活動場所	榎野川河口干潟およびその周辺
活動内容 ・計画	<p><b>活動内容</b></p> <p>榎野川の河口干潟には数多くの生物が生息するが、その保全活動や周知が限定的であるため、より干潟の魅力を伝えることを念頭に住民協同型で観察会を実施する。以下、主だった活動を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟のシンボルとなる生物を数種類程度選定する。</li> <li>・発見した場所を記録するため、写真で情報を保存する。</li> <li>・きらら浜自然観察公園との観察会の協同開催も考慮したい。</li> </ul> <p><b>予定</b></p> <p>2019年5月～10月・・・観察会を数か所で行い、主には南潟、長浜、阿知須、中潟などを候補地として、参加者に合わせて最終選定する。</p> <p><b>得られた成果の活用方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榎野川河口干潟いきものマップを作成</li> <li>・Googleなどのデジタルコンテンツにも反映し、より多くの人に榎野川河口干潟の魅力を伝える。</li> </ul>

### 3. 活動予算

申請金額	17,500 円	
予算の支出 期間	2019年 4月 ~ 2020年 3月 ※ 対象となる活動は2019年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)	
希望する 支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (17,500 円)	
支出予算	応募案内中の表1: ①~⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)
	印刷費	4000
	保険料	2000
	消耗品費	3500
	消耗品費	8000
	合計	17,500



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	カブトガニワーキンググループ リーダー 原田 直宏（山口カブトガニ研究懇話会）
--------	--

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	カブトガニ幼生生息調査・観察会
活動目的	山口湾は、絶滅危惧Ⅰ類「カブトガニ」の産卵場・生息場として全国的にも重要な地域である。干潟におけるカブトガニ幼生の生息状況等を調査することで、生息や産卵に適した環境の再生・保全に寄与する。
活動場所	山口湾干潟（長浜・南潟）
活動内容・計画	<p>&lt;概要&gt; 長浜及び南潟において、夏季の干潮時に年 1 回ずつ、県内外のボランティアや山口大学等の協力を受け、カブトガニ幼生の生息状況を調査する（2008 年度から継続）。また、子ども等を対象にしたカブトガニ観察会を開催し、山口湾の自然や生き物に対する関心を高めるための啓発を行う。2019 年 7 月頃から参加者募集の広報、関係者との調整を開始予定。</p> <p>&lt;調査方法&gt; 調査は、ベルトランセクト法により実施する。区域内に 1km の調査ラインを複数（長浜区：20 ライン、南潟区：5 ライン）設定し、調査者は、ライン上を歩きながら、発見したカブトガニの①個体数、②前体幅（齢数を推定するため）、③発見地点（GPS を使用）を記録する。長浜の調査は 2019 年 8 月下旬に 50 人程度で、南潟の調査は 2019 年 9 月上旬に 20 人程度で実施する。</p> <p>&lt;参考資料&gt; 別添…2018 年度カブトガニ生息調査結果</p>
	 <p>The figure consists of two satellite images with overlaid white lines representing survey transects. The left image is labeled '長浜' (Nagahama) and shows a large rectangular area with dimensions 1020m by 306m, containing 20 survey lines. The area is calculated as 312,120m² (31.2ha). The right image is labeled '南潟' (Minamihama) and shows a similar area with dimensions 1000m by 242m, containing 5 survey lines. The area is calculated as 242,000m² (24.2ha).</p>

### 3. 活動予算

申請金額	68,000 円	
予算の支出期間	2019年7月 ～ 2019年9月 ※ 対象となる活動は2019年度内に実施されるものに限りませんが、当該活動の実施のみに必要な経費であって、既に支出した備品・消耗品費、広告費等については支援の対象とします(旅費・宿泊費・謝金を除く。)	
希望する支払方法	希望する支払方法に <input checked="" type="checkbox"/> してください(概算払いを希望される場合は、その金額)。 <input type="checkbox"/> 精算払い(全額) <input checked="" type="checkbox"/> 概算払い (25,000 円)	
支出予算	応募案内中の表1: ①～⑦の項目ごとに記入してください。	
	区分	予算額(円)
	印刷費	2,500
	保険料	2,400
	消耗品費	14,400
	消耗品費	7200
	消耗品費	5,500
	備品費	36,000
	合計	68,000



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	持続可能な里海づくりワーキンググループ リーダー 船崎 美智子（株式会社ライフスタイル研究所）
--------	--

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 活動等の広報及び啓発活動 <input checked="" type="checkbox"/> 募金の運営・広報
活動名	榎野川河口干潟等における里海再生活動の共感者増加に向けた取組
活動目的	①ふしの干潟いきもの募金に対する住民等からの寄付の促進 ②干潟や活動等の普及啓発
活動場所	関連イベント（きらら浜自然観察公園等）
活動内容 ・計画	<p><b>①関連イベントにおける募金活動</b></p> <p>榎野川河口干潟等における関連イベントにおいて募金活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榎野川河口干潟再生活動 2019（4月20日）においては、山口県立大学や水産大学の学生等と連携し、参加者に対して募金の呼びかけを行う。</li> <li>・きらら浜自然観察公園の春まつり（4月29日）においては、参加料が募金に寄付される子ども向けのゲームを出展する。</li> </ul> <p><b>②干潟等に関するグッズ作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟の生き物等をデザインにしたグッズ（クリアファイル等）を作成し、寄付者やイベント参加者に配布することで、干潟や活動等の普及啓発を行う。</li> <li>・グッズには、募金の協力企業名を記載し、企業の社会貢献をPRする。</li> <li>・グッズ作成に当たっては、地元小学校等との連携を検討する。</li> </ul> <p>5月：連携先との調整 6月～11月：デザイン作成 12月～1月：完成</p>



## 1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川流域連携促進協議会 会長 西嶋 裕作
--------	-----------------------

## 2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動
活動名	榎野川河口干潟再生活動 2019
活動目的	地域住民・企業・大学等のボランティアの協力を受け、干潟耕耘作業や子どもを対象にした生き物観察会等をイベントで実施し、干潟環境の改善を図るとともに、地域住民等の親水性の向上等に寄与する。
活動場所	榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
活動内容 ・計画	<p>本団体は、2008年度から南潟において住民参加型の干潟再生活動（干潟耕耘等）を実施している。活動は、例年春にイベント形式で開催し、地域住民、企業、大学等の多くのボランティアの協力を受けている。2019年度は以下のとおり実施する。</p> <p>&lt;イベントの概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施日：2019年4月20日（土）</li> <li>● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所</li> <li>● 主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所</li> <li>協 賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)</li> <li>協 力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会、(株)伊藤園山口支店、(株)積水ハウス山口工場、水産大学校、山口大学、山口県立大学等</li> <li>● 参加者：300人程度（募集）</li> <li>● 内 容             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 榎野川の恵みを味わう試食会 ボランティアに榎野川流域で採れたアサリや山菜をふるまう。</li> <li>② 干潟耕耘 干潟底質の軟質化、嫌気化の改善等を図るため、クワ等で干潟を耕す。</li> <li>③ あさり再生活動 あさりの食害等を防ぐための“被覆網”を干潟に設置する。</li> <li>④ 潮干狩り・生き物観察会</li> </ol> </li> <li>● 備 考             <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年3月上旬～参加者募集の広報、関係者との調整を開始。</li> <li>・会場において、ふしの干潟いきもの募金の募金活動を実施。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;参考資料&gt; 別添…参加者募集チラシ</p>

